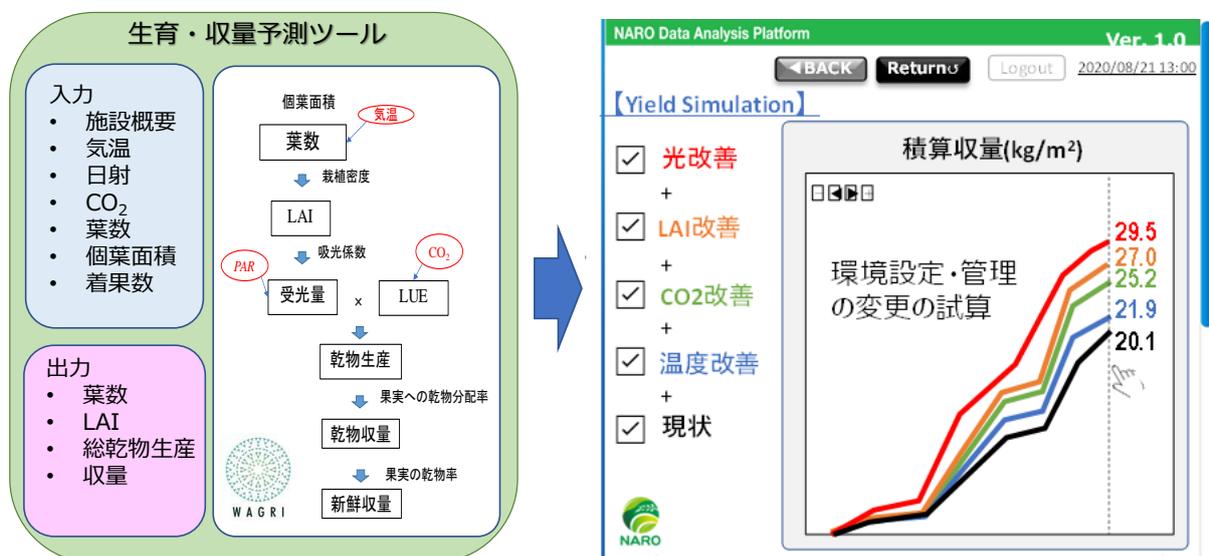


## 施設園芸作物の生育・収量予測ツール

施設園芸の生産性向上には、データを利用した環境制御が重要です。しかし、設定項目は数 10～300 余りと非常に多いため、経験や勘だけで適正な制御を行うのは容易ではありません。そこで、環境条件を変えたら生育や収量がどうなるか計算できる生育・収量予測ツール（ソフトウェア）を開発しました。日射、気温他の環境を変えた条件で生育等を計算しておき、その中から有利な条件を選択することによって、環境制御や栽培管理を支援します。

### ☆ 技術の概要

1. 生育・収量予測ツールは、日射、気温、CO<sub>2</sub>等の環境情報と葉数や葉面積等の生育情報等を入力すると、毎日どれくらい成長するか、収量がどうなるかを出力します。
2. 温度やCO<sub>2</sub>濃度を高めた場合に、どれくらい成長が進むか、収量が増加するか等が試算できます。これらの試算によって環境設定や栽培管理を変更した場合の効果をあらかじめ確認できます。
3. 1年間のトマト栽培実験で、本ツールを用い、好適な環境と作物管理を選択した栽培を行った結果、糖度5°以上の日本品種の収量は50トン/10a以上となりました。



### ☆ 活用面での留意点

1. 本ツールは、現時点ではトマト、キュウリおよびパプリカに対応しています。農業データ連携基盤（WAGRI）を介して利用可能であり、利用希望の企業を募集中です。
2. 詳しいことは、農研機構のお問い合わせフォームをご利用ください (<https://prd.form.naro.go.jp/form/pub/naro01/research>)。

(農研機構 野菜花き研究部門 東出忠桐)